

## 1月 留学月例報告書【フランス・ニース】

鱸真菜

### 01- Bonne année

あけましておめでとうございます。9月から始まった半年間の留学生活も終盤に差し掛かりました。人生で初めて海外で迎えた年越し。どこか大きな街に行ってみようか？などと、どう過ごそうか考えた結果、カウントダウンとはいえ深夜に一人で出歩くのは危険だと感じ、ニースの街中でのカウントダウンは諦めることにしました。その代わりに、家の近くの海辺から花火が見えたらいいなと思っていました。

日本時間の年越しの瞬間までは起きていたものの、前日まで出かけていた疲れもあり、夕方ごろに寝落ち。目を覚ましたのは、なんと年越しの約5分前。急いで部屋を飛び出し、ビーチへ向かいました。

残念ながら、ビーチには年越しの瞬間には間に合いませんでしたが、途中の道から花火を見ることはできました。思いがけずバタバタした年越しになりましたが、それもまたいい思い出です。結局、ビーチまでは行かずに、道の間から見えた花火で満足して帰宅しました。

どれくらいの人が海辺に集まっていたのかはわかりませんが、意外にも家の近くは静かで、「海外の年越しは賑やかだったりするのかな？」と少し期待していた分、拍子抜けしました。きっとニースの市街地では、大盛り上がりのカウントダウンが行われていたと思います。

私が見た花火は、大規模なものではなく、ぽつぽつと数発ずつ打ち上がる小さな花火でした。それでも、海の方だけではなく、さまざまな方向から花火の音が聞こえてきて、一体誰が打ち上げているのだろうなんて考えながら、しばらく耳を澄ませていました。花火の音は年越しから15分ほど続いていました。

もしまた海外で年越しをする機会があれば、次は大勢の人と盛り上がるカウントダウンを体験してみたい。そんな新しい夢ができました。



### 02- Major Project の最終発表

1月末をもって、パートナーシッププロジェクトの最終プレゼンテーションを除くすべての授業が終了しました。そして、約半年間にわたって取り組んできた大きなプロジェクトの最終発表が行われました。

12月までは計画通り進めていましたが、年末の長期休暇を迎えたことで自身のプロ

プロジェクトを改めて見つめ直す機会となりました。しかし、その過程でアイデアに行き詰まり、1月に入ってから、最終発表に向けて試行錯誤を繰り返す日々が続きました。どれだけ頭をひねっても新しいアイデアが浮かばず、次第に焦りが募るようになりました。元々、ユーザーリサーチやプロダクトデザインに苦手意識があったことも影響し、一度自分のアイデアに自信を失うと、思うように進められなくなってしまいました。「誰がこの商品を必要としているのか?」「そもそも自分だったら購入するのか?」といった疑問ばかり浮かび、プロジェクトの方向性を見失ってしまいました。このとき、自身の市場調査やペルソナの分析の甘さ、アイデアの幅の広さなど、さまざまな自身への課題を痛感しました。

発表の1週間前になってもアイデアは固まらず、周囲が最終調整に入っている様子を見ながら、焦りと不安でいっぱいでした。正直なところ、最終プレゼンテーションに出ることすら気が重く、途中で諦めかけていました。しかし、最後の週末に可能な限りの準備を行い、最終的な形をなんとかまとめ上げました。そして迎えたプレゼン当日。直前まで不安はありましたが、自分に甘えず逃げずにプレゼンテーションに出席し、無事に発表を終えることができました。

自分の成果物に対してはまだ多くの課題があり、納得のいく仕上がりとは言えませんでした。それでも最後まで諦めずに取り組み、発表の場に立てたことは、自分自身を評価したいと思います。また、周囲のプレゼンを見て感じたことは「自信を持つことの大切さ」でした。私は最終発表に向けて思うように進められなかったことで自信を失ってしまいましたが、他の学生が堂々と発表している姿から学ぶことも多くありました。

このプロジェクトはまだ完成ではなく、今後もブラッシュアップを続けていきたいと考えています。今回の経験を通じて、自分の課題を明確にすることができたとともに、今後どのように成長していくべきかを改めて考える貴重な機会となりました。

